

「祖母に教えてもらっていること」

高山市立清見中学校 3年 谷口 友郁

私の祖母は、私が生まれる前に目が見えなくなりました。だから祖母は、私の顔を見たことがありません。目が見えなくなるということはすごく怖いと思います。前に何があるのかが分からないから、物にぶつかることがあります。危ないし、食事でも風呂でも、全てにおいて見えない中で行うので、大変だと思います。しかし、私は一度も祖母が弱音を言うのを聞いたことがありません。私にはそんな強さはありません。

祖母にはすごい所がいっぱいあります。一つめは、風呂掃除を一人で行うことです。風呂掃除は、滑ったり転んだりしてしまう危険があるけど、祖母は毎朝欠かさず行っています。祖母のおかげで、私達家族は、毎日きれいな風呂に入ることができます。

二つめは、食器をふいたり、台ふきをしたりするところです。私がやるべきことを祖母がやってくれます。台の上には、時にはガラスや熱いものなど危ない物があるので、やってほしくないと思うけど、家族のためにやってくれていることなので、私はありがたく感じています。

三つめは、誰の手も借りずに自分一人で立ち歩いていることです。これは家の中だけですが、立派なことだと思います。

このように祖母は、目が見えているのかと思えるくらい、普通に生活できていますし、私達家族のために頑張ってくれています。

でも、外を一人で行動するのは危険なため、家族みんなで支えるようにしています。私が行っていることは、買い物の時に車いすを押すことです。私には、まだやれることがあるかもしれませんが、今はそのくらいしかできていません。

しかし、祖母はそんな私にいつも「ありがとう」と言ってくれます。「ありがとう」と言われると、やっぱりうれしいです。そしてこれからも支えていこうと思うし、他にも何かできるのではという気持ちになります。

あと、祖母は、月に一度か二度、友達とごはんを食べに行きます。そこでは、その友達の人達にいろいろ支えてもらっています。そんな話を聞くと、祖母はすごく良い友達がいるんだなと思います。うらやましいし、友達は大切だなと思います。

考えてみると、私にもそういう友達があります。私が足をけがして松葉づえをつけていた時、クラスの友達がいつも手を貸してくれました。とてもうれしかったことを覚えています。こういう友達を大切にしなければいけないと思いました。また私には、良い友達がいるということに改めて気付くことができました。

た。祖母も、きっと私と同じような気持ちなのだろうと思います。

私は以前に、一度でいいから祖母に私の今の顔を見てほしいと感じた時があります。それは、小学校を卒業して中学校に入学した時です。新しい制服を着て祖母に会いに行った時、私は祖母に制服を触らせてあげました。私には兄と姉がいるので、祖母は制服を触ったことはあったと思います。でも私の制服を触ってもらいました。その時です。制服だけでなく、顔も成長した身体も見てほしいと感じたのです。普通なら、赤ちゃんの頃から今までの私の成長を見てくれたのと思います。祖母もきっと見たいと思ってきているだろうし、私も見てほしいです。この気持ちを正直に伝えるのははずかしいです。だから、これからの私の行動、生き方で伝えたいです。これは、簡単なことではないので、時間はかかるかもしれませんが、少しずつ地道にやっっていこうと思っています。

そして、祖母は、もしかしたら、いえ、絶対に私よりも家族のために、いろいろなことで貢献しています。それに比べ、今の私は、正直自分のことしか考えていません。全然、家族のために何かをしていないように思います。しかし、この人権作文をきっかけに、今自分の思いが変わったように思います。だから、祖母に負けなくらい、家族に貢献できる自分になりたいです。

祖母には、とても感謝しています。私の面倒をたくさんみてるのはもちろん、私は祖母にたくさんのことを教えてもらっています。祖母は私に何かを教えようという気はないと思いますが、私は友達の大切さや、自分のできること、やるべきことは精一杯努力してやりきること、また友達同様に家族を大切にすること、それらを教えてもらっていると思います。

だから、これら教えてもらっていることをこれからもしっかりと胸に刻んで生きていきます。自分のために、家族・友人のために。そして大切な祖母のために。